



パブコメくん

京北地域の活性化ビジョン（仮称）（案）

～人と自然、文化が輝く、京北版「創造農村」を目指します！～

概要版

—— ビジョン（案）について市民意見を募集します ——

【募集期間】 平成27年6月26日（金）～平成27年7月25日（土）〔必着〕

右京区京北地域については、平成17年4月に本市との合併以降、「京都市・京北町合併建設計画」及び「京都市過疎地域自立促進計画」に基づき、住民の悲願であった京北トンネルをはじめ、上・下水道や道の駅の整備、農林業の振興等、各種事業を着実に実施し、京北地域の発展に向けた土台づくりに取り組んできました。

しかしながら、その一方で、人口減少や高齢化の進行に歯止めがかからず、地域活力の低下が懸念されています。

このため、合併から10年を一つの契機として、世界の京都の一角を占め、自然、歴史、文化、温かい地域コミュニティなど、魅力溢れるこの地域をしっかりと未来に引き継いでいけるよう、「京北地域の活性化ビジョン（仮称）（案）（以下「ビジョン（案）」という。）を策定したいと考えています。

この度、「ビジョン（案）」を取りまとめましたので、広く市民の皆様からの御意見を募集するものです。

※御意見の提出方法等については、8ページを御覧ください。

【問合せ先・送付先】

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市文化市民局地域自治推進室地域づくり推進担当

電話：075-222-3049 FAX：075-222-3042

電子メール：chikizukuri@city.kyoto.jp



1 京北の姿

(1) 概要

京北地域（以下、旧京北町を指す。）は、京都市の北西部に位置し、面積は、
217.68km²で京都市全体の4分の1を占め、その93%は豊かな森林です。平成
17年4月、歴史や文化のつながりがあり、通勤・通学等の日常生活圏が一体化し
ていた京都市との合併に至りました。

(2) 特徴と課題

ア 豊かな自然環境

京北地域は、丹波高原の中にあって、日本海と太平洋の分水嶺に位置し、中心
となる集落群でも300戸に満たない規模の64集落が散在しています。

京北地域の住民は、長い歴史の中で、花や緑、そして螢が舞う清流など、美
しい自然を守り育ててきました。四季折々の美しい花が咲き誇り、悠久の時を超
えてそびえたつ「片波の伏条台杉」など日本有数の貴重な自然が守られています。

イ 世界の京都の強みを徹底的に活かしきる

京北地域は、豊かな自然に恵まれた中山間地域でありながら、京都市の都市部
まで車で40分の近距離に位置します。京北地域のまちづくりに、世界の京都の
強みを徹底的に活かしきり、雇用、住まい、子育てなどの施策を展開できることは他都市には類を見ない大きな魅力です。

ウ 京都のまちを支える農林業

京北地域の産業は、古くから、スギ、ヒノキ等の豊かな森林資源を活用した、
全国的に有名な木材関連産業と米や京野菜などを中心とした近郊農業によりそ
の基盤が構築されています。現在も北山杉の磨丸太などの産地として、我が国の
「木の文化」を支えています。



京北地域特産の
京北子宝いも



イタリアのミラノ
万博に出品され
た、京北にアトリ
エを持つ若手女性
工芸作家の作品

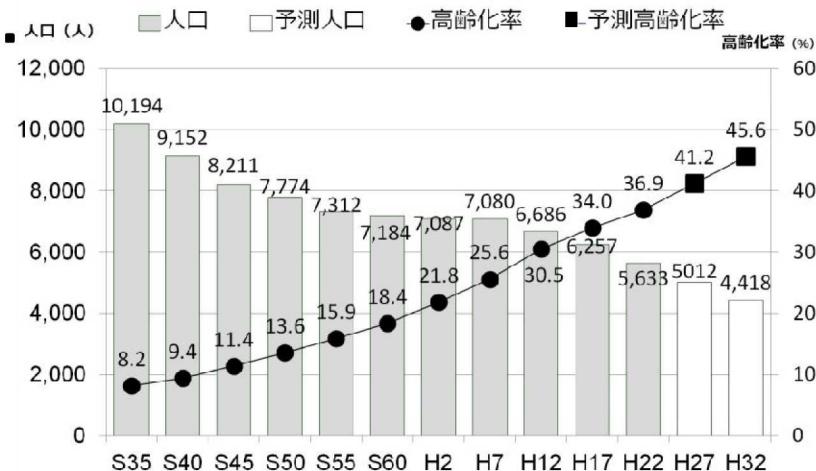
エ 人口減少と新たな住民

京北地域は、少子化・高齢化の進行により、自然動態（出生・死亡に伴う人口
の動き）が平成2年から減少に転じました。さらに、就労・就学による若年層の
地域外への転出などにより、平成8年から社会動態（転入・転出に伴う人口の動
き）も減少傾向となり、この傾向が続くと、50年後には人口が1,000人を下回ると予想されます。

京北地域を、未来に引き継ぐため、人口減少に歯止めをかけることが大きな課
題となっています。

他方で、豊かな自然環境に惹かれた職人、芸術家など創造的な事業活動を行う
人々が、これまでに約50人移住しています。こうした新たな住民と共生し、新
たな魅力を創出することで、新たなひとが定住する好循環へつなげていくことが
重要です。

京北の人口・高齢化率推移 (国勢調査) ※



※ 予測人口・予測高齢率については、平成17年度と平成22年度の値を用いてコホート変化率法によって算出した。

オ ひと、こころを育んできた歴史、文化

良好な自然環境を活かし、生かされるくらしの中で、文化を育み、地域の誇りや絆を大切にする精神的な豊かさを形成してきた地域の魅力を未来の住民に引き継ぐとともに、共感するひとが地域に癒され、創造性を發揮して社会に還元できるような好循環を生むことが、京北地域の持続可能な発展のために重要です。

2 京北ビジョンとは

(1) はじめに

ア これまでの取組

京都市と旧京北町は、平成17年4月に合併し約10年が経ちました。これまで「京都市過疎地域自立促進計画」や「京都市・京北町合併建設計画」に基づき、上・下水道や道の駅の整備のほか、住民の長年の悲願であった京北トンネルをはじめとする主要道路の整備を概ね完了させるなど、京北地域の発展に向けた土台づくりに取り組んできました。

イ ビジョン策定の意義（理念の共有）

「京北地域の活性化ビジョン（仮称）」は、合併から10年の節目を契機に、地域の持続的な発展に向け、まちづくりを担う様々な主体が、京北の未来像、重点戦略等を共有するために策定するものです。

(2) ビジョンの位置付け

ア 地域住民の思い、アイデアによるビジョン

本ビジョンは、地域住民の思いやアイデアをはじめ、外部有識者の知見や発想、全庁体制による検討を踏まえ、行政が実施主体となるものだけでなく、地域や事業者等の取組を含め、京北地域で「ちょっと便利な田舎暮らし」ができるよう、必要な施策や事業を盛りこんで策定するものです。

イ 「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」の重要な戦略となるビジョン

本ビジョンは、京北地域はもちろんのこと、本市の北部山間地域全体の活性化も視野に入れた、人口減少社会克服の道筋を明らかにするもので、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」における重要な戦略に位置づけられるものです。

ウ 過疎計画の基礎となるビジョン

現行の過疎計画は、平成28年3月に計画期間が終了しますが、法改正により、平成32年まで計画期間の延長が可能となりました。これを受け、平成27年度中に、ビジョンに基づいて行政が取り組む内容を示す新たな過疎計画を策定します。

(3) 策定の経過

ア 地域住民とのワークショップ

京北地域の現状及び今後のまちづくりについて、住民と行政が意見交換を重ねてきました。

イ 京北未来創造研究会

京北地域の実情や、まちづくりのノウハウ等に精通した有識者3名を中心に「京北未来創造研究会」を3回開催し、未来像等について議論が行われました。

ウ 京北地域活性化企画本部

京北地域の活性化に向け、幅広い施策の融合を図る必要があることから、本市の各部局の部長級等26名により「京北地域活性化企画本部」を5回開催し、必要な施策等について議論を行いました。

3 京北の未来像（私たちが目指す10年後の京北）

わたしたちは、京北の未来像として
人と自然、文化が輝く、京北版「創造農村*」を目指します！

(1) 快適で文化的な田舎暮らし
を実現！ ~まちの創造~

(3) 地域循環型の産業と雇用を創出！ ~しごとの創造~

(2) 次代を担う若者を常に輩出！ ~ひとの創造~

(4) 住民と来訪者に癒しと憩いを提供！ ~こころの創造~

* 「創造農村」とは、住民の自治と創意に基づいて、豊かな自然生態系を保全する中で固有の文化を育み、新たな芸術・科学・技術を導入し、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ農村を指します。(佐々木雅幸・川井田祥子・萩原雅也(2014)「創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略」学芸出版社より)

4 京北の未来像を実現するための3つの視点

京北の未来像を実現するためには、「雇用（しごと）」、「住まい」、「子育て」の3つの視点で考えることが重要です。

(1) 雇用（しごと）

京北地域で働き、住み続けたい人々や、地域の魅力に惹かれ移住したい人々が、自立して暮らすには、雇用を確保することが重要です。

ア 京北の経済基盤となる農林業

イ 歴史、文化や豊かな自然を活かした観光業

ウ 創造的な産業

エ 企業の立地促進

(2) 住まい

京北地域で、住み続けていくためには、移住希望者が希望に合った物件と出会い、地域に溶け込み安心して暮らしていくよう、移住・定住を促進する仕組みと地域の理解と協力が重要です。

ア 豊かな自然、歴史や伝統文化を活かす定住促進

イ 住みやすさの向上

ウ 空き家の流通促進

エ 人との温かいつながり

(3) 子育て

京北地域の将来の担い手を育てるとともに、京北地域から世界へはばたく人材を輩出するなど、京北地域の教育・子育て環境を更に充実することが重要です。

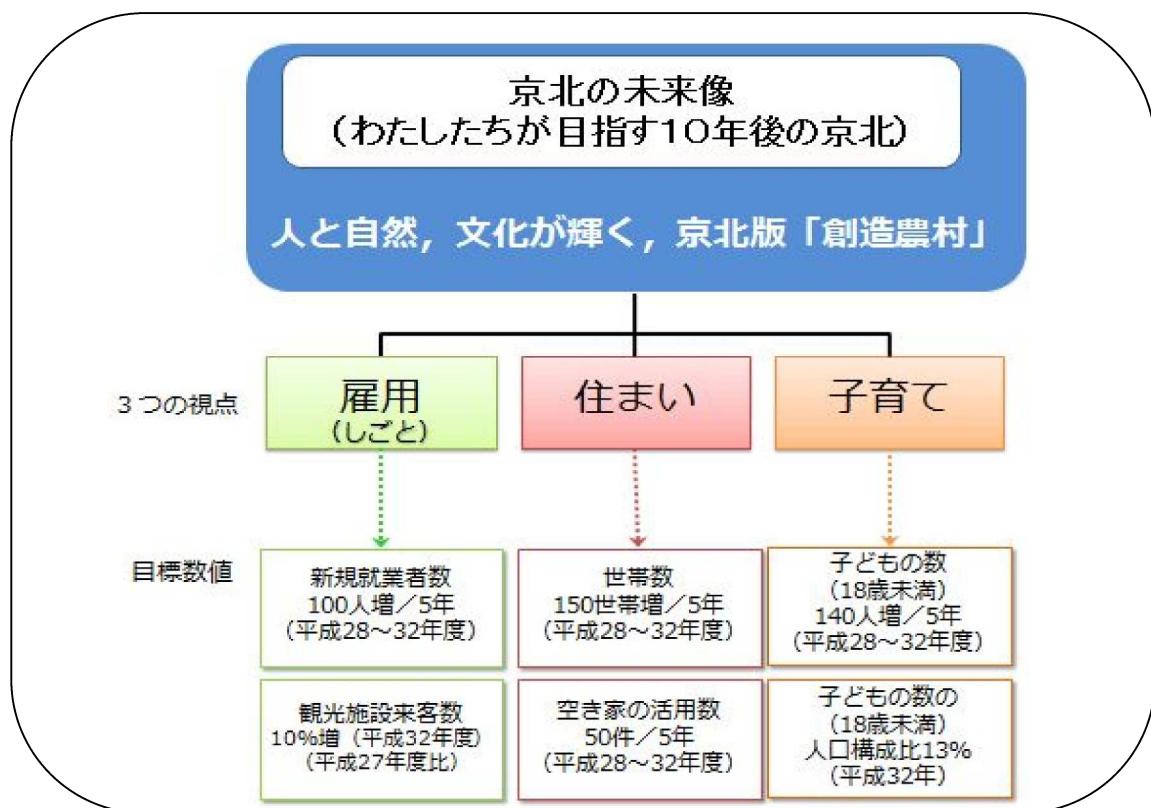
ア 地域への誇りを醸成するとともに、世界で活躍する人材育成に向けた教育

イ 大学・学生のまち

ウ 地域全体で子どもを育む「共育」

(4) 成果指標（目標数値）

本ビジョンで掲げている未来像を実現するために、雇用、住まい、子育ての3つの視点について、それぞれ目標数値を設定し、取り組みます。



目標数値の考え方

京北地域の人口の減少に歯止めをかけるには、年間30世帯（1世帯は大人2人、子ども1人を想定）の増加が必要であることから、目標数値は5年で「世帯数150世帯増」とします。

また、「新規就業者数」、「空き家の活用数」、「子どもの数」、「子どもの数の人口構成比」についても、年間30世帯の増加を基礎に設定しています。

これらの目標数値が達成できれば、概ね2025年（平成37年）を境に人口増加に転じる見通しです。

<現状趨勢>



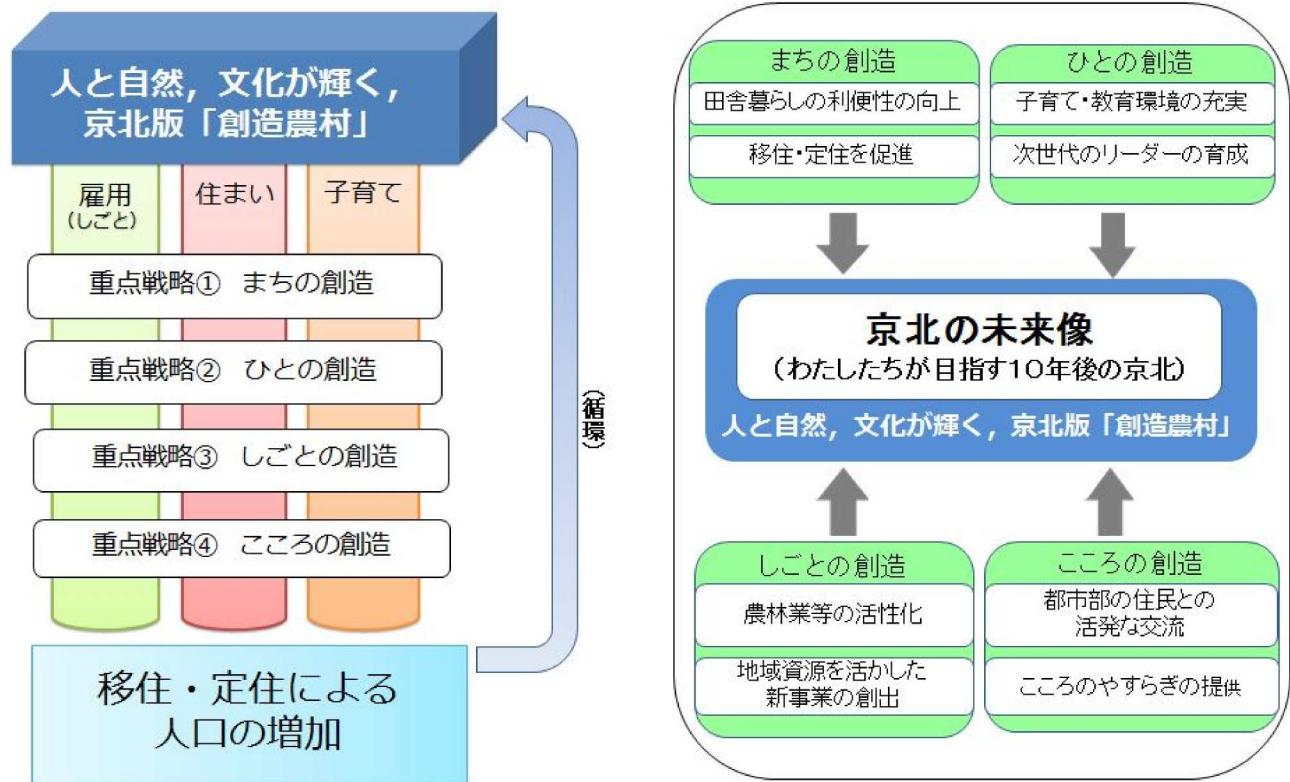
<年30世帯増>



※ 予測人口・予測高齢化率については、平成17年度、22年度の値を用いてコート変化率法によって算出した。

5 重点戦略

京北の未来像を実現するための3つの視点「雇用」、「住まい」、「子育て」に沿って優先して実施する各取組について、「まちの創造」、「ひとの創造」、「しごとの創造」、「こころの創造」の4つの重点戦略に基づき、地域住民、事業者、NPO・学術機関等と京都市が一体となって推進します。



(1) まちの創造（田舎暮らしの利便性の向上、移住・定住を促進）

豊かな自然や伝統文化を未来へ引き継ぐとともに、超高速インターネット環境の整備や公共交通（バス）の再編により、田舎暮らしの利便性を高めます。また、移住・定住に関する相談窓口や助成制度を創設し、都市部に近接している優位性を最大限に活かして、都市との交流や移住・定住を促進します。

<施策のイメージ>

目玉施策

- ア 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進<地域、事業者、行政>
- イ 通学・買い物・通院バスの効率的な運行による公共交通の利便性の向上<地域、事業者、行政>
- ウ 移住・定住促進（相談窓口の設置・定住助成）<地域、事業者、行政>
- エ 空き家の流通促進<地域・事業者・行政>

新規・充実施策

- オ 移住・定住促進のための滞在型モデルの構築<地域、事業者、行政>
- カ 移住・定住希望者向けイベントへの出展<地域・行政>
- キ くらしを支える水道・下水道の確保<行政>
- ク 災害に強いまちづくり<行政>
- ケ 消防力・地域防災力の充実強化<地域、行政>
- コ 未利用の公共施設の活用<地域、事業者、行政>

(2) ひとの創造（子育て・教育環境の充実、次世代のリーダーの育成）

京北地域の自然や歴史、伝統文化等に根ざした教育プログラムを推進し、人のつながりや地域コミュニティを活かして、郷土を愛する態度を育むとともに世界で活躍できる児童・生徒を育みます。

併せて、住民が主役の持続的なまちづくりに取り組むため、次世代のリーダーや地域の方々の意見や考えを引き出すファシリテーター（調整役）を育成します。

<施策のイメージ>

目玉施策

- ア 地域に誇りを持ち、世界で活躍する人材育成に向けた小中一貫教育の推進<行政>
- イ 京北の地域力を活かした「公助・共助」による子育て支援の推進<行政>
- ウ 地域における次世代リーダー、ファシリテーターの育成<地域、行政>
- エ 京北地域6地区におけるコミュニティの活性化のための拠点づくり<地域、事業者、行政>
- オ 地域おこし協力隊員との協働による地域の活性化 <地域、行政>

新規・充実施策

- カ 図書のまち構想<地域、事業者、行政>

(3) しごとの創造（農林業等の活性化、地域資源を活かした新事業の創出）

地域資源を活用した農林業の活性化を図るため、収益性の高い農作物の育成や6次産業化を推進します。

また、地域資源の活用をはじめ福祉、エネルギー等の社会的課題の解決に向けたソーシャル・イノベーションの推進、創造的活用や農業等による自立した定住の実現支援、事業所の誘致等により、多様で魅力ある雇用（しごと）を生み出します。

<施策のイメージ>

目玉施策

- ア 地域資源を活用した農山村の活性化<地域、事業者、行政>
- イ 滞在型アウトドア観光・グリーンツーリズムの推進<地域、事業者、行政>
- ウ 定住につなげる滞在サポートシステムによる就業・雇用の創出<地域、事業者、行政>
- エ 農林業の持続的経営力の強化<地域、事業者、行政>

新規・充実施策

- オ 事業所の誘致<地域、事業者、行政>

(4) こころの創造（都市部の住民との活発な交流、こころのやすらぎの提供）

豊かな自然や伝統文化を背景とした、田舎暮らしに魅力を感じる都市部の住民を温かく迎え入れ、活発に交流し、嬉しいまちづくりを進めます。

温かいコミュニティの中でひとを大切にしてきたこころ豊かな風土を受け継ぎ、住む人・訪れる人にこころのやすらぎを提供します。

<施策のイメージ>

目玉施策

- ア 教育・研究機関との連携<事業者、行政>
- イ 文化芸術による京北の活性化<事業者、行政>
- ウ 「こころの創造」を推進する研修プログラムの構築<地域、事業者、行政>

新規・充実施策

- エ 花の名所づくり<地域、事業者、行政>
- オ 地域の活力の創造（ひとの誘致）<地域>
- カ 水源地保全の取組<地域、事業者、行政>

京北地域で暮らしてみよう！！



10年後の
京北の姿

田舎暮らしを考えているのですが、京北では
どのようなサポートが受けられますか？



物件見つかる
かしら？

「ふるさと回帰フェア」等のイベントにおいて京北地域の魅力を積極的に発信しています。また、移住・定住に向けた相談窓口を設置し、長期滞在や住まい・しごと探し、移住後の様々な相談に応じています。田舎暮らしのための必要経費の助成制度もあります。



「住まい」はどうしたらよいのですか？



相談窓口では、長期滞在型のレンタルコテージや空き家の情報をお知らせします。また、市が直接、所有者から空き家を借り上げ、必要な改修を行ってからお貸ししている住宅もあります。



「しごと」はあるのですか？

事業所の誘致
も行います



相談窓口では、しごと探しの相談にも応じます。シェアオフィス・工房等を活用した創作活動や農の学校制度（仮称）を活用した農業の実習によって、定住に向けたしごと探しを支援します。



「子育て環境」はどうですか？



子育て支援都市として、「京北で子育てしたい」「京北で育ってよかった」と思っていただけるよう、乳幼児期から切れ目のない子育て支援施策や小中一貫教育を進めています。



一度行ってみ
ようよ！

その他に京北地域のウリは何がありますか？



京北地域は、京都の市街地から車で40分ぐらいの近距離。光ファイバの整備や災害につよいまちづくりでインフラも整い、市街地への通勤・通学も可能。こころの豊かさ・愉しさを求めて、ちょっと便利な田舎暮らしの体験に、ぜひお気軽にお越しください。

皆様からの御意見をお待ちしています！

このパンフレットは、ビジョン（案）の概要をまとめたものです。

京北地域の活性化ビジョン（仮称）（案）の全体は、京都市ホームページの市民意見（パブリックコメント）募集一覧

（<http://www.city.kyoto.lg.jp/templates/pubcomment/O-Curr.html>）
に掲載しています。

提出方法

郵送、FAX、又は電子メールで提出してください。様式は自由です。裏面（9ページ）の記入用紙を御利用いただいても結構です。

- ※ この意見募集で収集した個人情報につきましては、「京都市個人情報保護条例」に基づき適切に取り扱い、他の目的に利用することは一切ありません。
- ※ 御意見につきましては、募集の終了後に、その概要及び御意見に関する本市の考え方を取りまとめ、京都市ホームページで公表します。
- ※ なお、お寄せいただいた御意見に対する個別の回答は行いません。また、提出いただいた書類の返却はいたしませんので、あらかじめ御了承ください。

【募集期間】 平成27年6月26日（金）～平成27年7月25日（土）〔必着〕

【問合せ先・送付先】 ☎ 604-8571（住所は記入不要）

京都市文化市民局地域自治推進室地域づくり推進担当

電話：075-222-3049

FAX：075-222-3042

電子メール：chiikizukuri@city.kyoto.jp



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



「京北地域の活性化ビジョン（仮称）」（案）についての御意見記入用紙

【募集期間】平成27年6月26日（金）～平成27年7月25日（土）〔必着〕

【宛 先】

FAX: 075-222-3042

郵送:〒604-8571 (住所は記入不要)

京都市文化市民局地域自治推進室地域づくり推進担当

＜御意見記入欄＞

御記入ありがとうございました。

※以下の欄は、御意見を取りまとめる際の参考としますので、差し支えなければ御記入ください。

【年齢】	歳代	【性別】	1 男性	2 女性
【居住地等】				
1 京北地域在住	2 京都市内在住（京北地域在住除く）	3 京都市外		
【通勤・通学地等】				
1 京北地域に通勤・通学	2 京都市内に通勤・通学（京北地域に通勤・通学除く）			
3 1, 2以外				